

令和7年度 第3回理事会 議事録

日時 令和7年 11月 27日(木) 17:30～

場所 Zoomによるweb会議

出席

理事 植木 哲也(○) 鈴木 貴志(○) 加藤 裕之(○) 埴田 耕一(○) 石井 敦(○)
石塚 毅彦(○) 菅野 真紀(○) 伊豆野良太(○) 宇野 恵(○) 三部美穂子(○)
金子 章江(○) 丸川 明穂(○) 齋藤 朋子(○) 奥山 馨(○) 渡部 冬虹(○)
石塚 玲子(○) 高橋 佳代(○) 荒生 聖子(○)

監事 菊地 功祐(○) 伊藤千代子(○) 鈴木めぐみ(○)

議長 植木 哲也

書記 石塚 玲子 齋藤 朋子

欠席(委任) 阿部 智哉 小笠原智子 高橋 瑠美

議事

本理事会は、理事21名のうち18名が出席であり、定款第33条に基づき理事会における議決が成立することが確認されたのち、議事に入った。

○理事会開催前に「日本臨床衛生検査技師会代表理事会長 横地常広氏」より「日臨技の現在地と航路 横地会長が示す継続と革新のビジョン」について講話をいただいた。

医学検査のデジタル化、WEB開催の推奨、組織の再編・再構築、生涯教育・学術の再編制、診療報酬改定、日臨技ホームページにもある公約(重点課題7項目)など多岐にわたってお話をいただいた。

質疑応答では、鈴木貴志理事から「病棟検査技師の加算」について質問があり、何らかの足がかりが見え、光が見えてきている状況であり、今後も議論を継続していくとのお言葉をいただいた。

北日本支部でも次期会長選挙に横地会長を推すことが確認されており、山臨技としても同様に横地会長を推薦していくことが確認された。

○ 報告

1. 会長報告／日臨技・北日本支部

- ・11/20(木)理事会がWeb開催された。学術部の再編・e-ランニングの動きあり。
- ・第75回日本医学検査学会が青森県主催で令和8年(2026年)9/26(土)～27(日)に幕張メッセで開催される。(世界医学検査学会2026と同時開催)
- ・日臨技精度管理報告会は11月29日(土)で現地開催は最後となる。以後はWeb開催。
- ・令和8年度からWeb開催の支部研修会参加費は一律2000円となる。
- ・第13回日臨技北日本支部医学検査学会が新潟県主催で令和7年11/15(土)～16(日)に朱鷺メッセで開催された。一般参加者1000名以上、一般演題155題、情報交換会300名以上の活気ある学会であった。令和8年度第14回は秋田県主催。令和9年度第15回は山形県主催となる。実行委員会発足後、秋田県に視察に行く予定である。
(第15回は令和9年11月13(土)～14(日) 山形テルサにて開催予定)
- ・岩手県・新潟県で理事・部門長交代の為、委員の交代が目立つ。岩手県の事務所が移転した。
- ・山臨技のメールアドレスがYahooからGoogleに変更になった。
- ・北日本支部の生物化学分析部門員の名前が前任者のままのため訂正を依頼した。

2. 各地区（村山／庄内・最上／置賜）

- ・村山：2月に研修会を済生館で開催予定
- ・庄内・最上：9/20 庄内最上地区研修会を「にこふる（鶴岡市）」にて開催
栄養をテーマに2つの演題。参加者 28 名
- ・置賜：第 44 回 山形県医学検査学会 10/25（土） タスパークホテル長井にて開催
参加者 一般会員 135 名 賛助会員 48 名 計 183 名
情報交換会には約 50 名参加
来年度に向けてのアンケートも実施中
米沢市立病院 飛塚技師長が 11 月に山形県知事賞を受賞、来期に祝賀会設定
→総括会議・祝賀会の実施をと植木会長から提言あり

3. 各部（庶務／会計／学術／企画）

- ・庶務：庶務部：山臨技ニュース発刊した。並びに山臨技 HP にアップした。
10月号→令和7年度第44回山形県医学検査学会について
11月号→健康と検査展について
令和7年度村山 AMR 等対策ネットワーク研修会に県中鈴木裕部門長が山臨技として参加した。日時：令和7年11月14日（金）15：30～17：00 WEB 会議。
- ・会計：山形県医学検査学会のランチョンセミナー・展示の企業 10 社中 8 社から協賛金の入金確認している。残りの 2 社も引き続き確認する。
事務所備品の新規購入について計画あり。
 - ・ストーブ（10 年前にサービス終了）
 - ・掃除機（部品の劣化・破損）
- ・学術：研修会

8/26 臨床血液部門共催-山形血液検査セミナー	参加者 30 名
8/30 臨床検査総合部門・生物化学分析部門合同研修会（web）	参加者 62 名
9/6 病理細胞部門研修会	参加者 31 名
9/6・9/7 臨床微生物・染色体/遺伝子部門合同研修会	参加者 36 名
9/13 輸血細胞治療部門研修会	参加者 41 名
9/27 臨床血液部門研修会 ①	参加者 40 名
9/27 臨床生理機能部門研修会	参加者 73 名
11/1 臨床一般部門研修会	参加者 30 名
11/14・15 北日本支部医学検査学会	
当会より座長 4 名選出（微生物/血液/総合/生理）	
R8/1/24 臨床血液部門研修会 ②	
R8/2/4 輸血細胞治療部門共催 看護師と臨床検査技師の合同学習会	
R8/2/7 臨床生理機能部門研修会 ②	

学術部会議について
開催の是非も含めたアンケート調査を実施。
その結果を受け学術部会議を開催する提案あり→来年 1 月に Zoom 開催予定。
次期部門長の選出は 8 名のうち 1 名が未確定。
- ・企画：11/8（土） 『検査と健康展』 がイオンモール山形南で開催された。

実務員 24 名。来場者数約 300 名。終日、大盛況であった。

実務員のアンケート結果をふまえて、反省点・改善点を来年度へ引き継ぎたい。

来年度の開催場所などは未定。

4. 各委員会（生涯教育／精度管理・データ標準化／「山形医学検査」編集／ホームページ）

生涯教育：学術部から報告があった開催済みの研修会等の生涯教育の申請は終了。

1/24 臨床血液部門研修会②については JAMT を利用しての参加受付中
(現在 66 名の申し込みあり)。

精度管理・データ標準化：

- ・ JAMTQC 上に施設別参加報告書をアップ済み。生化学・病理で数回の訂正あったので、その都度メールにてお知らせをした。

- ・ 山臨技サーベイの費用の請求書と領収書および参加証の発送終了済み。

- ・ 12 月 14 日(日)に開催される精度管理報告会に向けて準備中。

参加申込 Google forms 使用し、16 時現在一般会員 107 名、実務委員 10 名の申込あり。当日渡す参加証について、所属および氏名はご自身で記入してもらう試運用を理事会で了承を得られた。

- ・ 2026 年度(R8)都道府県用精度管理試料(臨床化学)使用申込済み(11/14 金)。

JAMT-QC1.2(セット)：75 セット マルチボックス輸送 県立中央病院 植木会長宛

「山形医学検査」編集：(小笠原委員長欠席のため庶務部長代読)

医学検査 VOL34.2 会員名簿掲載 8 月発行

VOL34.3 県学会抄録と制度管理報告の合冊号 10 月発行

次号は 2/28 発行予定

7 月に血液分野での論文投稿あり。2/28 発刊号に掲載予定。

VOL34.2 会員名簿に会員名の誤掲載あり。ホームページにおわびを掲載。

『検査と健康展』についてもホームページにアップした。(植木会長)

ホームページ：特になし

システムについて(加藤副会長より)

3 年前のウイルス対策ソフト期限切れにて更新をお願いしたい。

今学会で使用した LAN システムが古くなったので新規購入した。

○議題

1. 県学会学術賞および若人奨励賞選考について

- ・ 学術部長より、14 演題について 20 名の選考委員からのポイント数をもとに推薦されたことを報告。

演題番号 6 「検査部の医療安全活動の取り組み」 山形県立河北病院 金子紀子

演題番号 10 「当院における健常者を用いた呼吸機能検査の精度管理運用の取り組み」
山形大学医学部附属病院 佐東 香南子

演題番号 5 「Lewis 酵素欠損により CA19-9 を合成していないことが疑われた 1 症例」
山形県立新庄病院 佐藤 諒

演題番号 8 「小児における嚥下時発作性房室ブロックからめまいを生じた 1 例」
山形市立病院 済生館 本田 愛莉

→上記 4 演題を最終候補とし、3 役で最終選考を行うことを理事会で承認された。

2. その他

- ・山形医学検査の資料寄贈と著者抄録利用許諾について（庶務部長より）

文科省が所管している科学技術振興機構（JST）への回答を以下のとおり行うことを承認。

- 1 著者抄録利用許諾の可否→利用許諾する
- 2 対象誌名が変更された場合の許諾継承→利用許諾は継承する
- 3 継続寄贈許諾の可否→寄贈許諾する
- 4 寄贈許諾する場合、バックナンバーの寄贈について

→2023 年 4 月以降に発行した資料を寄贈する

- ・データベース化等のこともあるので庶務部長に一任する。

- ・日本臨床衛生検査技師会 デジタル会員証の運用開始・新規バーコードリーダーについて（庶務部長より）

- ・理事・役員で利用してもらい、年内に一般会員へ広報予定。

- ・R8 年度より新規発行・再発行は終了。

- ・デジタル会員証では QR コードが表示される。

→それを読み取るためのバーコードリーダーは事務所に保管。今後はこれを利用していく。

- ・将来的に災害時の安否確認など有効に利用していきたい。（植木会長）

- ・災害時支援協定について（植木会長より）

山形県と山臨技の災害時支援協定の申し入れを県に行っているが連絡がない。再度申し入れを行う。

- ・来年度の秋田への視察について（植木会長より）

14 回北日本支部医学検査学会（秋田県主催）の視察はウインドブレイカー又はベスト・腕章・各担当の名刺を準備して臨みたい。

- ・イベントペイについて（学術部長より）

「イベントペイによる会費徴収は便利な反面、会計処理に苦慮する部分あり。各部門研修会・学会の集金明細が混在した様式にて発行されるため明確な収支が出しにくい」とのこと。今後の活用について、各部門・県学会等の収支を可能な限り明確にしたうえで、手数料等は学術部門の支出としたほうがいいのか、部門ごとに口座をもちそれぞれがイベントペイと契約する方を取るか論議された。

→イベントペイは 3.5%の手数料が発生する。

部門ごとの口座開設は現実的といえないので、手数料は学術部一括管理とし、手数料を除いた分を各部門経費とする方向性が良いのではないか。（加藤副会長）

これをふまえて今後の運用を決めていくことになった。

- ・精度管理・データ標準化（菅野委員長より）

新品ながら未使用の端末(yamaringi-03)を生理機能部門から精度管理委員会に引き継いだ
が、常に有線状態でないと立ち上がらず、かつ充電も行えない状態であった。

数年間未使用だったため、バッテリーが劣化した可能性がある。

端末の現状調査と可能であれば新規購入を検討の提案があった。

→植木会長より「加藤副会長から端末の精査をしていただき、必要があれば

新規購入を積極的に検討する。」とあり。

○連絡事項・その他

- ・6月ごろに病院の技師が山臨技へ入会書類を郵送したが、会員名簿などに反映されていないのではないかと(菊地監事)
 - 事務員不在の時期であったため不備があったと思われる(植木会長)
 - 小笠原「山形医学検査」委員長と石塚庶務部長に必要事項を連絡することになった。
- ・R8年 元旦の山形新聞に山臨技の広告を掲載(植木会長)
 - 例年どおり、1 枠 74mm×83.5mm 6万円の枠に広告掲載。
 - 業務執行理事で承認を得た(植木会長)
- ・次回理事会(令和7年度 第4回)
 - 年明け総括会議と併せて実施か→3 役で決めて連絡することとした。